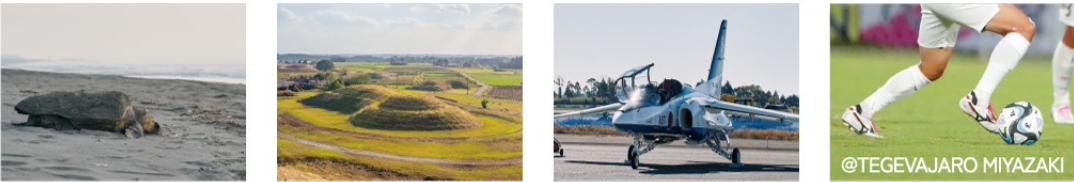


新富町とは？

新富町は宮崎県のほぼ中央部の沿岸地帯にあり、総面積は61.48km²の小さなまち。農地面積は約2,600haで、早期水稻や施設園芸の盛んな水田地帯、かんしょや茶・畜産の盛んな畑地帯を有しています。

アカウミガメの産卵地である美しい海岸線「富田浜」や、日本遺産「新田原古墳群」、国指定天然記念物「湯の宮座論梅」、国土防衛の「航空自衛隊新田原基地」など、見どころも多くあります。

また、サッカーのまちでもあり、新富町にホームがある「テゲバジャーロ宮崎」、なでしこリーグ1部所属の「ヴィアマテラス宮崎」が在籍。さらなる飛躍が期待されています。



地元にもう一度“共感”と“期待”を。

こゆ財団は「**稼いで町に再投資する**」をテーマに掲げ、新富町役場が、旧観光協会を法人化して設立した地域商社です。

主に『**ふるさと納税に関する業務の受託運営**』と『**起業家育成**』を柱として、地域経済の創出に取り組んでいます。特に、こゆ財団がブランディングに携わった『1粒1,000円の生ライチ』は多くのメディアで取り上げられ、町の特産品の1つになりました。

取り組みを続けた結果、新富町への移住者や起業家が增加。多くの空き家も再生し、事業と雇用を創出。これらの成果が認められ、2018年には国の地方創生優良事例にも選出されました。



PURPOSE

期待が膨らむ地元。

たとえ小さな挑戦でも、共感が生まれれば、本気の関わり合いとなる。暮らす人も、関わる人も、想いや資源をめぐらせながら、未来に期待が生まれ、地に価値が育つ仕組みをつくります。

VISION

新しい豊かさがあふれる町へ
-COLORFUL TOWN with 100CHALLENGES-

農業も、商業も、福祉も、まちづくりも。小さな「やってみたい」が多様な挑戦を生み、まちに彩りをつくる。一人ひとりの意思あるチャレンジが、豊かさのカタチを更新していく。地元を目指します。

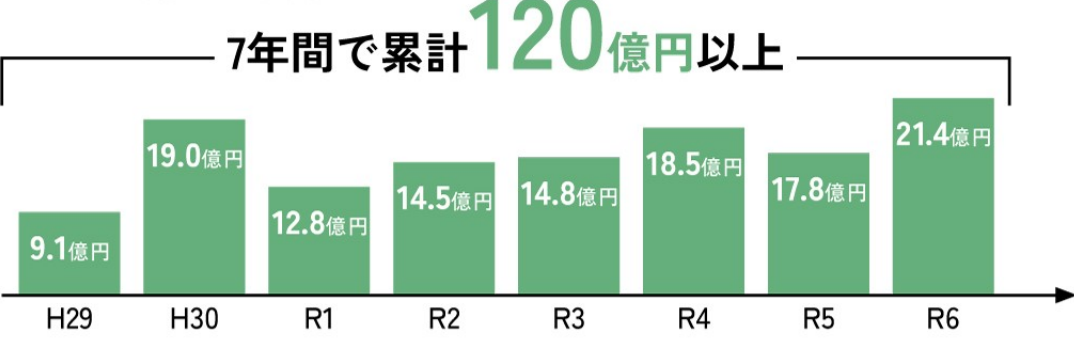
MISSION

100の「半々ビジネス」をつくる

半分は、地元に意味があり、貢献できること。半分は、ビジネスとしてしっかり稼げること。この「半々半々」の「半々ビジネス」こそが、地元に彩りをもたらす。その両輪で、価値ある挑戦(チャレンジ)を、地元から生み出し続けます。

ふるさとと納税の活用による特産品開発と販路拡大

(MISSIONに基づき)特産品で稼ぎ、人材育成に再投資する地域活性化のサイクルを構築しています。その一つの手法としてふるさと納税を活用しながら、特産品開発・販路拡大に向けたマーケティングを行っています。



ふるさと納税：新富町の返礼品



新富町産ライチ

国内流通1%!希少な国産生ライチ。大きさ・重さ、溢れる果汁とブリッとした果肉が、多くの人を虜に。



うなぎ

養鰻生産量全国3位の宮崎県。中でも新富町のうなぎは一ツ瀬川の恵みと、職人に育てられ、至極の逸品に。



観光：こゆ朝市

商店街を人が集まる場所に。地域が運営していた朝市を引き継いで始まった、毎月第3日曜日に開催される『こゆ朝市』。当初の「イベントをやれば人は集まる」という予想とは裏腹に、集客や出店者集めに奔走。それでも町内外の皆様のご協力を得て、今では地域コミュニティの場として定着しました。

※その他、自治体や民間企業との連携事業を行っています。

